



Title	北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2012 : 年次記録 : 安心して暮らせる社会づくり
Issue Date	2017-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/65270
Type	report
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	chapter-1.pdf ()



[Instructions for use](#)

1. サステナビリティ・ウィーク 2012 の概要

本年の特徴

- ・開催テーマ : 安心して暮らせる社会づくり
- ・企画実施期間 : 2012年9月1日～11月30日
 - メイン期間 : 2012年10月6日～10月21日
- ・企画数 : 36企画
- ・参加者数 : 5,843人
- ・特筆事項 :
 - 総長を議長とする「サステナビリティ・ウィーク組織委員会」は、これまでの開催経験を踏まえ、サステナビリティ・ウィークのコア期間を10月最終週から11月最初の週に固定化することに決定した。
 - サステナビリティ・ウィークが6年目を迎えるにあたり、公式ロゴマークを日本全国に公募したところ197件の応募があった。学内審査により採用を決定した作品について、「サステナビリティ・ウィーク」「Sustainability Weeks」「図形（サステナビリティ・ウィーク公式ロゴマーク）」の商標権を登録した。当権利は、平成35年7月12日まで有効である。
 - 過去6年間の累計で、開催企画数は200、参加者数は5万人に達した。
 - サステナビリティ・ウィーク6年の歴史上はじめて日本国外で企画が開催された。フィンランド、インドネシア、ブルキナファソ、ネパールを会場とする企画には、現地や周辺国の研究者や大学生、非営利団体などが集まり、本年のテーマに沿って議論が行われた。
 - 国連寄託図書館に指定されている北海道大学附属図書館は、貧困解決のための世界的キャンペーン「STAND UP TAKE ACTION」に寄与すべく、初めてフォーラムを企画して学生、教職員、市民に呼びかけたところ85人が参加した。

❖ 総長あいさつ

東日本大震災の被災地では復興に向けた取り組みが進む一方、いまだにご不自由な生活をされている方々が多くいらっしゃることで、心よりお見舞い申し上げます。

この1年間に生じた自然災害や人為災害に加え、エネルギー問題等の不安定な世界情勢を見るにつけ、安心して暮らせるということがどれほど尊く貴重なものであるか、わたしたちは改めて考えさせられたのではないのでしょうか。

安心できる暮らしは、自然発生的に生じるものではなく、私たちひとり一人が叡智と心を尽くして作り上げていくものです。6年目を迎えたサステナビリティ・ウィークは、テーマを「安心して暮らせる社会づくり」と定め、我々の暮らしを脅かす多様な課題の解決を目指し議論する機会を提供します。

特に今年は、社会のモデルを具体的に示していこうと、北海道大学のキャンパスや北海道の暮らしを新たに設計するための議論の機会を用意しました。また、課題を抱える現場へ赴き、地域の研究者や住民との議論を大切にしよう、初めて海外で「サテライト企画」を開催します。

続くいのちのために、そして今あるすべてのいのちが大切に営まれていくために必要な「安心」とはどのようなものなのか、共に考える機会となりますようお願いしております。



北海道大学 総長 佐伯 浩

2012年8月
北海道大学
総長 佐伯 浩

北海道大学 サステナビリティ ウィーク 2012



安心して暮らせる
社会づくり

Hokkaido University
Sustainability Weeks
2012

フェス7
国立大学2012 JANU



北海道大学

東日本大震災の被災地では復興に向けた取り組みが進む一方、いまだにご不自由な生活をされている方が多くいらっしゃることで、心よりお見舞い申し上げます。

この1年間に生じた自然災害や人為災害に加え、エネルギー問題等の不安定な世界情勢を見るにつけ、安心して暮らせるということがどれほど尊く貴重なものであるか、わたしたちは改めて考えさせられたのではないのでしょうか。

安心できる暮らしは、自然発生的に生じるものではなく、私たちひとり一人が叡智と心を尽くして作り上げていくものです。6年目を迎えたサステナビリティ・ウィークは、テーマを「安心して暮らせる社会づくり」と定め、我々の暮らしを脅かす多様な課題の解決を目指し議論する機会を提供します。

特に今年は、社会のモデルを具体的に示していこうと、北海道大学のキャンパスや北海道の暮らしを新たに設計するための議論の機会を用意しました。また、課題を抱える現場へ赴き、地域の研究者や住民との議論を大切にしようと、初めて海外で「サテライト行事」を開催します。

続くいのちのために、そして今あるすべてのいのちが大切に営まれていくために必要な「安心」とはどのようなものなのか、共に考える機会となりますようお願いしております。



北海道大学 総長 佐伯 浩

1

24時間 国際サステナ対話

International Dialogue for a Sustainable Future

日本時間の10月6日(土)正午から7日(日)正午は、国際サステナ対話の日。持続可能な社会づくりに取り組む学生や大学の今を、YouTubeで24時間配信します。並行してTwitterやFacebookを通じ、世界のそれぞれの場所でサステナビリティに取り組む人々と対話します。

10月6日 — 10月7日

YouTubeチャンネル <http://www.youtube.com/user/hokkaidouniv>

ルサカ GMT+2	ヘルシンキ GMT+1	北京 GMT+8	ソウル GMT+9	札幌 GMT+9	
05:00	06:00	11:00	12:00	12:00	12:00 ~ サステナ対話 Start! サステナビリティ・キャンパスを目指す北海道大学の今を、学生レポーターが中継。SW公式ロゴの最優秀賞の授賞式の様子や、第1回「ホーム・カミング・デー」に集まった卒業生の様子もご覧いただけます。
11:00	12:00	17:00	18:00	18:00	18:00 ~ サステナ・学生フォーラム サステナビリティの課題について、学生が熱く議論します。 20:30 ~ GiFT ~ Global Issues Forum for Tomorrow since 2011 ~ 世界の重要課題に挑む北海道大学の研究者4人が、研究の意義や面白さを伝え、共に課題解決に取り組む若い仲間を募ります。
17:00	18:00	23:00	00:00	00:00	00:00 ~ ナイト・ツアー 欧州やアフリカとのコミュニケーションが活発になる時間帯。夜中のキャンパスと再放送を楽しみつつ、対話を続けます。
23:00	00:00	05:00	06:00	06:00	06:00 ~ 北海道大学の朝を中継 アメリカとのコミュニケーションに移っていきます。 フィナーレは、”あの銅像”の前から。
05:00	06:00	11:00	12:00	12:00	12:00 サステナ対話 Finish!

2 サステナ・カフェで放映!
10月6日(土) 10:30-16:00

場所: 学術交流会館ホール 学生企画

大型の映像装置で、24時間サステナ対話をご覧いただけます。飲み物を片手に、パブリック・ビューイングしませんか。

サステナ・カフェとは?

北大カフェプロジェクトの学生が、心のもった飲み物 & 楽しい会話を提供するコミュニケーション・スペースです。可能な方はマイ・カップを持参ください。
※カフェのみ 10月7日(日) 11:00-16:00 もオープンしています。



北海道大学 サステナビリティ・ウィーク 2012

サステナビリティ・ウィーク 公式ロゴ決定

『持続的な時の流れ』をコンセプトにデザイン。四角から丸に変化する過程は、未来への継続、時のつながりを表します。調和を保ちながらゆるやかに変化する色は、自然・人間・文化・社会の多元性と多様性を示します。遠目からは煌めく星や咲き誇る花に見え、輝きのちを象徴しています。

制作者 山口 聡一さん(東京都)

社会のモデルを示す



北海道のポテンシャルを活かし、
安心して暮らせる社会のモデルを世界に発信します。

3 9月1日(土)~11月30日(金) 9:00~16:00 (天候等により適宜変更)

電動カートDE北大散策 グリーン電力を利用した移動手段に関する実証研究

学生企画

- a バリアフリーな移動手段 & 心通う会話を提供する電動カートが北海道大学のキャンパス内に登場します。ドライバーは環境を学ぶ学生です! 将来的には、環境科学のソーラーパネルが生むグリーン電力を使い、雪深い冬も運行することを目指し、本年は基礎的な実証研究を行います。北大にお越しの際は、ぜひご乗車ください。
- b 北海道大学 札幌キャンパス内路上 c 日本語
- d 不要(路上で声をかけてください・無料)
- e 北海道大学 環境科学院 IFES-GCOEプログラム 環境教育研究交流推進室
- f 北海道大学 環境教育研究交流推進室(担当:吉村暢彦) TEL: 011-706-3355
E-mail: ynobu14001@ees.hokudai.ac.jp URL: http://reo.ees.hokudai.ac.jp/

4 10月13日(土)~10月14日(日) 土曜日 12:00 開場 13:00 開講

国際シンポジウム 先住民文化遺産とツーリズム~北海道の可能性~

- a 昨今、文化遺産とそれを取り巻く地域社会との関係性が重要視されています。本シンポジウムでは、先住民に係る文化遺産とその活用手段としてのツーリズムについて、アイヌ民族を含む当事者による講演をしていただきます。この機会を通じて、文化遺産と地域の関わり方、持続可能な文化遺産保護・継承・活用のあり方を探っていきます。
- b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語(同時通訳) d 不要(無料)
- e 北海道大学 アイヌ先住民研究センター f 北海道大学 観光学高等研究センター
- f 北海道大学 アイヌ先住民研究センター(担当:岡田真弓)
TEL/FAX: 011-706-2859 E-mail: m-okada@let.hokudai.ac.jp

5 10月17日(水) 12:30 開場 13:00 開講

産学官セミナー 地理空間情報が拓く未来Ⅳ——防災GISとハザードマップ

- a 新しいデジタル地図として『地理空間情報』が全国で整えられつつあり、『地理情報システム(GIS)』や『衛星測位』の技術とともに活用することで、新しい社会を築く動きが活発になっています。そこで、地震や津波などにおける防災GISの活用とハザードマップ整備について、企業・大学・官庁における最新の動向をわかりやすく解説します。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語 d 不要(無料) e 北海道大学 文学研究科
- f GIS学会北海道地方事務局、北海道GIS・GPS研究会、NPO法人Digital北海道研究会
- e 北海道大学 文学研究科(担当:橋本雄一) TEL: 011-706-4019
E-mail: you@let.hokudai.ac.jp

6 10月19日(金) 13:00 開場 13:30 開講

環境政策セミナー 持続可能な北海道・日本・世界へ ~再生可能エネルギーとグリーンエコノミー~



- a 本セミナーでは、再生可能エネルギーの研究者、実務家、日本政府のRio+20担当者等による講演と議論を通じて世界と日本の動き、そして北海道各地のこれまでの取組の成果を概観します。持続可能な社会の達成に向けて、北海道における今後の再生可能エネルギーの利用促進に係る課題を市民のみならず共に考えます。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語 d 必要(無料) ウェブサイト、FAX、電話にて10月17日まで受付 e 北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクト
- f 環境省 北海道地方環境事務所 g 環境省 北海道地方環境事務所 環境対策課(担当:細井拓也) TEL: 011-299-1952 FAX: 011-736-1234
E-mail: reo-hokkaido@env.go.jp URL: http://www.sustain.hokudai.ac.jp/carbon/jp/

7 10月21日(日) 12:30 開場 13:00~17:00

第3回 サステナブル・キャンパス・コンテスト

学生企画

- a 学生のアイデアで北海道大学を「持続可能なエコキャンパス」にしよう! という想いでサステナブルキャンパスコンテストを実施します。学生の自由な発想や研究成果の応用を活かした多様なプロジェクト案が発表される予定です。
- ★コンテスト出場者募集中★
最優秀賞を獲得したアイデアは、北海道大学の中で実証実験が行われます。
- b 北海道大学 学術交流会館 第1・3・5会議室 c 日本語 d 聴講者:不要(無料)、コンテスト出場者:必要/出場申込書を10月5日(金)までに提出 e 学生団体 SCSD (The Students Council for Sustainable Development in Hokkaido University) f 北海道大学 公共政策大学院
- e 学生団体 SCSD(担当:諏訪部力) TEL: 080-1818-0104 E-mail: scsdmail@gmail.com
URL: http://scsdhome.web.fc2.com/index.html

協力ネットワーク を広げる




国境を越えた協力をさらに進めるため、サステナビリティ・ウィークのサテライト行事を海外で初めて開催します。



0 **日時**

行事名



- a 概要
- b 会場
- c 言語
- d 申し込み(参加費)
- e 主催
- f 共催
- g 問い合わせ先

このマークが付いている行事は、ウェブサイトから参加の申込みができます。

【参加申込み】

<https://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/application/>



バックの色は各行事のカテゴリーを表しています。

M
ODEL

社会のモデルを示す

N
ETWORK

協力ネットワークを広げる

F
UTURE

未来への学び

Q
UALITY

すこやかに人間らしく生きる

N
ATURE

調和を見いだす

8 **10月27日(土)** 開会式 9:00 試合 9:20 ~ 17:00頃

第9回プレゼン・ディベート大会
原発は是か非か!?—エネルギー政策と北海道経済

a 北海道大学の学部生がチームを組み、独自のアイデアをプレゼンし、ディベートの中でその長短所を検証します。東日本大震災以降、国内の原発の多くは停止状態です。そこで、原子力発電は継続すべきなのか、廃止すべきなのか、エネルギー政策の観点から北海道経済への影響も絡めて学生が提言を競います。市民、高校生、大学生、環境・エネルギー・経済関係者のご来場をお待ちしています。

b 人文社会科学総合教育研究棟 W103 c 日本語 d 不要(無料) e 北海道大学 経済学部
f 北海道大学 経済学部主催 第9回プレゼン・ディベート大会運営事務局(担当:塚田久美子)
TEL/FAX: 011-706-4066 E-mail: sacade@econ.hokudai.ac.jp
URL: http://www.econ.hokudai.ac.jp/

12 **11月22日(木)** 12:30 開場 13:30 開講


地域経済経営シンポジウム
地域の多元的な「豊かさ」を目指して

a 従来の地域産業政策では、所得上昇という経済的な目標のみを掲げて企業誘致や産業支援を行ってきました。しかし本来は、住民の多元的な価値観を踏まえた豊かさを最大化することが目的となるべきです。今回は北海道の基幹産業である農業を例に、消費者も生産者もそうした豊かさを実現できるように、挑戦的な活動を続けている専門家と実践者を講師に迎えて議論を深めます。

b 人文社会科学総合教育研究棟 W103 c 日本語 d 不要(無料)
e 北海道大学 経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター(REBN)
f REBN事務局(担当:塚田久美子) TEL/FAX: 011-706-4066
E-mail: sacade@econ.hokudai.ac.jp URL: http://rebn.econ.hokudai.ac.jp/

9 **10月29日(月)** 12:30 開場 13:00 開講

サステイナブルキャンパス
国際シンポジウム2012



a 本学と持続可能なキャンパスに関する国際交流プロジェクトを協働している欧州3大学より、その構築に向けた行動や地域連携計画、そしてPDCAサイクルの評価項目・手法について紹介していただきます。日欧の違いについて議論し、今後の知見を得ることを目的とします。

b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語・英語(同時通訳)
d 必要(無料) ウェブサイトにて10月26日(金)まで受付
e 北海道大学 サステイナブルキャンパス推進本部
f 北海道大学 サステイナブルキャンパス推進本部 TEL: 011-706-3660
E-mail: osc@osc.hokudai.ac.jp URL: http://www.osc.hokudai.ac.jp

13 **11月22日(木)** 12:30 開場 13:30 開講

市民公開シンポジウム
自然エネルギーを1次産業に活用した地域振興

a 石油資源枯渇への不安や原発災害の体験から安全な自然エネルギー(再生可能エネルギー)への関心は高まっています。そこで本シンポジウムでは、次の4つの観点から議論します。(1)木質資源を活用した町づくり、(2)農山村のエネルギー的自立に向けて、(3)1次産業における地域熱エネルギーの直接利用、(4)農業施設と自然エネルギー

b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語 d 不要(無料) e 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター f 日本農作業学会
g 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター(担当:荒木肇) TEL: 011-706-3645
E-mail: araki@fsc.hokudai.ac.jp

10 **9月10日(月)~14日(金)** 8:30 開場 9:00 開講

フィンランド・北大 ジョイント・シンポジウム
北方圏の環境変化

a 昨年は北海道大学で、今年はフィンランドでシンポジウムを開催します。気候変動と世界の経済動向によって急速に変化している北方圏の環境を対象とした共同研究と、それを将来的に支える若手研究者の育成について、最新の成果を共有します。また、北方圏に関わる多分野の研究者が研究協力を発展させていくための計画を共に議論します。

b オウル大学(フィンランド)、オウルカ研究所(フィンランド) c 英語 d 不要(無料)
e オウル大学、ラップランド大学、北海道大学、フィンランドセンター
f 北海道大学 国際本部 国際企画担当
TEL: 011-706-8025 FAX: 011-706-8036 E-mail: global@oia.hokudai.ac.jp
URL: http://thule.oulu.fi/englanti/studies/NERS2012prog.html

14 **9月18日(火)** 9:00 開場 9:30 開講

国際シンポジウム
アフリカにおけるサステナビリティ学の展開

a アジアとアフリカ地域における問題解決を担うリーダーを育成するため、北海道大学は台湾、中国、ブルキナファソ、インドネシアの高等教育機関とサステナビリティ学国際教育プログラムを実施してきました。アフリカでの活動強化に向けブルキナファソへUNESCOスタッフを招き議論します。

b 国際環境学院(ブルキナファソ国・ワガドゥグ) c 英語 d 不要(無料)
e 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター f 国際環境学院(ブルキナファソ)
g 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター(担当:田中晋吾)
TEL: 011-706-4530 E-mail: jim@cenus.hokudai.ac.jp
URL: http://www.census.hokudai.ac.jp/

11 **9月13日(木)~14日(金)** 12:30 開場 13:00 開講

国際ワークショップ
環境・生態に関する施策と環境評価モデリング

a アジア各国と日本の二国間合意による新市場メカニズムの構築を促す日本の政策が重要になっています。政策を策定するには、生態や社会経済のシミュレーションとモデリングとを組み合わせる必要があります。今回は、インドネシアの熱帯泥炭地におけるシミュレーションやモデリング、環境施策の専門家と議論し、成果をCOP18に提案します。

b NOVOTEL HOTEL(インドネシア国・ボゴール市) c 英語 d 不要(無料)
e 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター f インドネシア科学院
g 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター(担当:百田恵理子)
TEL: 011-706-4586 E-mail: jj-admin@census.hokudai.ac.jp
URL: http://www.census.hokudai.ac.jp/html/JSTJICA/index.html

15 **10月7日(日)~9日(火)** 9:00 開場 9:30 開講

国際シンポジウム
かわりゆくアジアの山岳環境

a アジアの山岳地域に焦点を当て、(1)陸域システムの脆弱性・回復力・持続可能性、(2)山地災害・氷河湖決壊洪水・気候変化と適応・観光と生業・生物多様性・自然環境保全などの山岳環境の変化について、最新の研究成果を共有します。さらに、今後の共同研究計画と共に、研究成果の地域社会への還元方法についても議論します。

b ホテル・ヒマラヤ(ネパール国・カトマンズ) c 英語
d 必要(発表を希望する者のみ登録料が必要) 下記URLより受付
e 北海道大学、ネパール・トリブバン大学、GLP札幌拠点オフィス
f GLP札幌拠点オフィス 国際シンポジウム担当 FAX: 011-706-3851
E-mail: info@glp.hokudai.ac.jp URL: http://2012mountainsympo.org/

未来への学び



叡智(えいち)や課題を分かち合い共感することを通じて、
新たな未来を切り開く心、ちから、仲間を育みます。

16 10月18日(木) 18:00 開場 18:10-19:40

北大×JICA 連携企画

持続可能な社会をつくる日本の海外ボランティア ～青年海外協力隊の活動から見る国際協力の世界～

- a 持続可能な社会づくりへの貢献を目指した草の根レベルのボランティアの基本は、現地の人々とともに生活し、働き、彼らと同じ言葉で話し、相互理解を図りながら、彼らの自助努力を促進するように活動することです。その基本に沿って途上国で活動したJICA青年海外協力隊のOB/OGによる報告を通して、国際協力とは何か、持続可能な社会の実現のためにはどうすればよいのかを共に考えましょう。
- b 北海道大学 国際本部 大講義室 c 日本語 d 不要(無料)
- e JICA北海道 f 北海道大学 国際本部
- f JICA北海道 市民参加協力課(担当:大倉綾) TEL: 011-866-8421
E-mail: Okura-Aya@jica.go.jp URL: <http://www.jica.go.jp/sapporo/index.html>

すこやかに 人間らしく生きる



ひとり一人が身体的、精神的、社会的に良好な状態
(Well-being)で質の高い生活(Quality of Life)を送る
ことのできるコミュニティをつくります。

17 9月15日(土) 9:00 開場 10:00 開講

市民公開講座

本当は歯じゃない歯痛のはなし

- a 歯は全く健康なのに、患者は歯が痛いと訴えることがあります。本講座は、そういう原因不明の歯痛について、国際的に著名な研究者を招いて勉強することを目的としています。また、抜歯や手術を行った後に残る知覚異常や疼痛、麻痺、違和感などが起こる原因と、その治療方法、治癒の経過についても症例を紹介します。歯科の専門家のみならず、専門知識がない市民も理解できる内容です。
- b 北海道大学 歯学部講堂 c 日本語・英語(同時通訳) d 必要(無料) E-mail、FAX、葉書にて9月13日(木)まで受付 e 北海道大学 歯科研究科
- e 北海道大学 歯学研究科(担当:有馬太郎) TEL: 011-706-4275 FAX: 011-706-4276
E-mail: tar@den.hokudai.ac.jp

18 9月15日(土)～16日(日) 8:30 開場 9:00 開講

専門型 公開講座

持続可能な社会と生物時計

- a 生物時計は、すべての生物がもつ約24時間のリズムを作り出すメカニズムです。繁殖・冬眠・渡りなどの季節変化を發揮する生物時計の研究は、「時間」をキーワードに持続可能な社会の実現に多くのヒントを与えます。本シンポジウムでは、昼夜や餌の量に応じて活動時間帯を変化させる脳と各臓器の時計の違いなど最新の研究成果を共有します。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語・英語 d 不要(無料)
- e 第19回 日本時間生物学会学術大会 f 北海道大学 医学研究科 時間医学講座
- e 北海道大学 医学研究科 時間医学講座(担当:中村さやか)
TEL/FAX: 011-706-4737 E-mail: physiolo@med.hokudai.ac.jp
URL: <http://www.ec-pro.co.jp/19jsc/index.html>

19 一般公開:10月13日(土)～21日(日) 正午-17:00
発表:10月16日(火) 10:30-18:00

第4回 北海道大学

サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト

- a 北海道大学の学生が、自らの研究を「持続可能な社会づくりへの貢献」という観点で見つめ直し、ポスターにまとめて発表します。10月16日には、発表者がポスターの横に立って説明をし、来場者の質問に答えます。また、同日に審査が行なわれます。学生が未来をどう見据え、何を研究しているのか、そして研究ポスター発表とはどのようなものかを知る良い機会です。
- b 北海道大学 学術交流会館 ホール c 主に英語、日本語も若干あり d 参観者:不要(無料)、発表希望者:必要/ウェブサイトから募集要項をダウンロードし、応募用紙を9月20日(木)までに提出。
- e 北海道大学 e 北海道大学 サステナビリティ・ウィーク事務局(国際本部内)
TEL: 011-706-8031 FAX: 011-706-8036 E-mail: office2@sustain.hokudai.ac.jp
URL: <http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/students/>

20 10月24日(水)～10月28日(日)

学生企画

CLARK THEATER 2012

- a 今年のテーマ「Routes」には、原点を意味する「root」と、道程を意味する「route」の意味があります。期間限定の映画館で上映する長編&短編映画や企画プログラムを通して「Routes」を考える事は、あなたのこれから、社会のこれからを考えるきっかけとなるでしょう。東日本大震災を取り扱った映画も予定しています。どのようなサポートができるか、映像の力を借りつつ考えてみてください。
- b 北海道大学 クラーク会館 c 日本語・英語・その他 d 不要(有料、一部無料プログラムあり)
- e 北大映画館プロジェクト
- e 北大映画館プロジェクト TEL: 090-2071-1952
E-mail: info@clarktheater.jp URL: <http://www.clarktheater.jp/ct2012/>

21 9月18日(火) 12:00 開場 13:00 開講

市民セミナー

安心した暮らしと在宅ケアを支える

- a 急速に高齢化が進む日本では、日常生活の中で健康を維持管理できることが重要です。看護・介護が必要になっても在宅で安心な生活ができれば、病院ベッド数の不足を解消できますし、「自宅で最期を迎えたい」という国民意識にも適います。本セミナーは、在宅を中心に安心した暮らしを支えるための科学や技術を高校生にも分かりやすく紹介します。
- b 北海道大学 学術交流会館 第1会議室 c 日本語 d 不要(無料)
- e 北海道大学 保健科学研究所 f 第27回 生体・生理工学シンポジウム
- e 北海道大学 保健科学研究所 事務課 TEL: 011-706-3315
E-mail: shomu@hs.hokudai.ac.jp URL: <http://www.hs.hokudai.ac.jp/>

22 10月12日(金) 10:00 開場 10:30 開講

ESD 国際シンポジウム

共生社会への教育の挑戦



- a 社会の進歩のために専門家を輩出してきた高等教育機関は、現代社会を作る原動力でした。しかし、高度に細分化した専門分野を制御する機能を欠いた社会は、人間、自然環境そして社会自身の持続性を危うくしています。当シンポジウムでは、知の統合化と共生社会を可能にする教育および大学の役割とは何かを議論します。
- b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語(逐次通訳)
- d 必要(無料) ウェブサイト、FAXにて10月11日(木)まで受付
- e 北海道大学 教育学研究院 f 高麗大、ソウル国立大
- e 北海道大学 教育学研究院 国際交流委員会(担当:河口明人)
TEL: 011-706-5421 FAX: 011-706-4951 E-mail: akitok@edu.hokudai.ac.jp

23 10月15日(月) 13:00 開場 13:30～17:00

第3回 国際シンポジウム

東アジアの子どもの健康とサステナビリティ



- a 肥満、生活習慣病、体力低下、アレルギーなど、ライフスタイルおよび生活環境に起因する子どもの健康問題が顕在化しています。本シンポジウムでは、日本をはじめ中国、韓国、台湾の現状を紹介し、情報交換を行うとともに、子どもにとって健康で持続可能な社会の構築に向けて何をすればよいかを議論します。
- b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語(逐次通訳) d 必要(無料) ウェブサイト、E-mail、電話、Faxにて10月10日(水)まで受付 e 北海道大学 環境健康科学研究教育センター
- f 北海道大学 教育学研究院、保健科学研究所、医学研究科
- e 北海道大学 環境健康科学研究教育センター(担当:荒木敦子、小松麻衣)
TEL: 011-706-4747 FAX: 011-706-4725 E-mail: info@cehs.hokudai.ac.jp

24 10月25日(木) 11:40 開場
12:10 開講

キャリア・セミナー
国際協力プロジェクトをいかに実現するか
開発コンサルタントが語る途上国現場と仕事

a 開発コンサルタントは、開発プロジェクトの企画・調査から実現まで、国際協力の最前線で途上国政府や開発行政を支える技術者・専門家集団です。本セミナーでは、開発コンサルタントの仕事の具体的な紹介します。将来的に国際協力に従事したい方のキャリア相談も行います。


b 北海道大学 人文社会科学総合教育研究棟 W102 **c** 日本語 **d** 不要(無料)

e 北海道大学 経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター (REBN)

f 北海道大学 経済学研究科、(後援) ECFA & JICA北海道

g REBN事務局 (担当:塚田久美子) TEL: 011-706-4066
E-mail: sacade@econ.hokudai.ac.jp URL: <http://rebn.econ.hokudai.ac.jp/>

25 10月26日(金) 14:45 開場
15:00~17:00 開講

留学希望者向けセミナー
SD on Campus 

a 北海道大学が交流協定を結んでいる海外の大学の代表者が、自らの大学の魅力をアピールします。集まるのは「持続可能な社会の実現(SD)」に向けた研究と教育に力を入れている大学ばかりです。留学に興味のある人、海外の他大学のSDの取り組みに関心のある人は、この機会をお見逃しなく!

b 北海道大学 国際本部 **c** 日本語・英語(通訳あり)

d 必要(無料) ウェブサイトにて10月24日(水)まで受付

e 北海道大学 国際本部

g 北海道大学 国際本部 国際支援課(担当:河野公美) TEL: 011-706-8053
E-mail: jryugaku@oia.hokudai.ac.jp

26 10月27日(土) 13:00 開場
13:30 開講

情報科学研究科教員の企画
やさしい情報科学とライフイノベーション公開講座
——体験しながら学ぶ理科・科学入門教室

a 情報科学(IT)の革新的技術を生む最先端研究をやさしく解説します。特に、高校・高専等の学校で学ぶ「理科」と大学で研究する「科学・技術」がどの様につながっているかを、次の3つの事例を通じてお話しします。(1)キラル分子の追跡、(2)脳外科手術シミュレータ、(3)耳の不思議と代替機械。理科好きはもちろん、理科嫌いな学生も大歓迎です。

b 北海道大学 学術交流会館 第4会議室 **c** 日本語 **d** 不要(無料) **e** 北海道大学 情報科学研究科

f (後援) 最先端次世代研究開発プログラム **g** 北海道大学 情報科学研究科(担当:館野高)
TEL: 011-706-6763 E-mail: tateno@ist.hokudai.ac.jp

27 10月17日(水) 18:00 開場
18:30 開講

STAND UP
TAKE ACTION in Hokudai

a 貧困をなくすために「立ち上がる」世界的キャンペーンを北海道大学でも開催します。国連資料の利用ガイドンス、教員によるミニ講演、学生による国際協力活動の事例報告を通して、世界の貧困解決のために何が出来るのかを考えます。最後にみんなで立ち上がり、集合写真を撮影。イベントの様子は世界のリーダーへ報告されます。さあ、立ち上がりましょう!

b 北海道大学 附属図書館 本館 メディアコート **c** 日本語 **d** 不要(無料)

e 北海道大学 附属図書館(国連寄託図書館)

g 北海道大学 附属図書館(担当:千葉浩之) TEL: 011-706-3615
E-mail: ref@lib.hokudai.ac.jp URL: <http://www.lib.hokudai.ac.jp/standup>

28 10月20日(土) 13:00 開場
13:30 開講

国際シンポジウム
異性装とパロディ

a 現代日本のサブカルチャーに表れるジェンダー表象の特質を、ジャポニズム、女性表象、オタク文化におけるセクシュアリティといった視点から議論します。サブカルチャーという多様なジャンルとメディアにおいて、現実的な性別役割分担や性差別からどこまで自由に表現できるのかを問いながら、持続可能な性の多様性や平等性の実現について考えてみませんか。

b 北海道大学 学術交流会館 講堂 **c** 日本語・英語(同時通訳) **d** 不要(無料)

e 北海道大学 応用倫理研究教育センター

g 北海道大学 応用倫理研究教育センター(担当:瀬名波栄潤)
TEL/FAX: 011-706-4085 E-mail: june@let.hokudai.ac.jp
URL: <http://ethics.let.hokudai.ac.jp/ja/events.html>

調和を見いだす 

自然の恩恵を意識しつつ、
環境を損なわずに暮らす道を模索します。

29 10月15日(月) 12:30 開場
13:00 開講

日中共同シンポジウム
持続可能なサニテーションとリスク管理

a 水を媒体とするすべての病気は貧困によって悪化し、さらに貧困の原因となります。世界保健機関(WHO)によれば、汚染された水によって毎年世界で約170万人の命が奪われているそうです。本シンポジウムでは、JST「戦略的国際科学技術協力推進事業(日本と中国)」の成果をもとに、世界の水・衛生問題解決に向けて議論します。

b 北海道大学 学術交流会館 第1会議室 **c** 英語 **d** 不要(無料)

e 北海道大学 工学研究院 **f** 科学技術振興機構(JST)

g 北海道大学 工学研究院 サニテーション工学研究室(担当:細川愛)
TEL: 011-706-6270 E-mail: ubnwttrse@eng.hokudai.ac.jp

30 10月30日(火) 17:30 開場
18:00 開講

時計台サロン
農学部にて聞いてみよう
～自然と食の巡り違い～

a 巷で関心が高まっている「農」の話題について、農学の研究者が分かりやすく解説し、背景にある課題を広く市民に知っていただく機会です。今回の話題は、持続可能性(サステナビリティ)をキーワードに、自然との調和を目指した自然の管理について、特に鹿や兎など食料としての草食動物を巡る課題に焦点を当ててお話しします。

b 札幌時計台 **c** 日本語 **d** 不要(無料)

e 北海道大学 農学研究院

f 北海道新聞社

g 北海道大学 農学事務局 TEL: 011-706-2420 URL: <http://www.agr.hokudai.ac.jp/>

31 11月2日(金)～11月3日(土) 金曜日 18:30 開場
19:00 開講

総合研究企画シンポジウム
「生きづらさ」を超えて

a 多くの人が時代の圧力によって締め出され、存在の不安定さを感じる状況を「生きづらさ」と呼ぶならば、それは人間発達の危機であると同時に、閉塞感を超える新たな発達の論理を見出すチャンスでもあります。「生きづらさ」の時代における人間発達の可能性と、その支援実践の課題を検討し、今の時代が求める学びのありかたを探求します。

b 人文社会科学総合教育研究棟 W203

c 日本語 **d** 不要(無料)

e 北海道大学 教育学研究院附属 子ども発達臨床研究センター

g 北海道大学 教育学研究院(担当:宮崎隆志) TEL/FAX: 011-706-3495

32 11月3日(土) 12:00 開場
13:00 開講

市民公開講座
ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ

a 「安心して暮らせる社会の仕組み」をキーワードに保健科学の3名の研究者が、ちょっとためになる興味深い話題を提供します。第1話は、増加しつつあるアレルギーについて。第2話は、看護師・保健師・助産師を上手に活用する方法とは。第3話は、高齢者の延命治療について、欧米と比較した我が国の寝たきり高齢者の問題を解説します。

b 北海道大学大学院 保健科学研究院 3-1 講義室 **c** 日本語 **d** 必要(無料)メール、電話にて10月31日(水)まで受付 **e** 北海道大学 保健科学研究院

g 北海道大学 保健科学研究院 事務課 TEL: 011-706-3315
E-mail: shomu@hs.hokudai.ac.jp URL: <http://www.hs.hokudai.ac.jp/>

イベントスケジュール

● 主な対象

日程	行事名	専門家	市民	大学生 院生	高校生	中学生 以下	その他	3	19	20
9/1(土)～11/30(金)	3 電動カートDE 北大散策 グリーン電力を利用した移動手段に関する実証研究		●	●	●	●		9/1		
9/10(月)～14(金)	10 フィンランド-北大 ジョイント・シンポジウム：北方圏の環境変化	●		●						
9/13(木)～14(金)	11 国際ワークショップ：環境・生態に関する施策と環境評価モデリング	●	●	●						
9/15(土)	17 市民公開講座：本当は歯じゃない歯痛のはなし	●	●	●			歯科医			
9/15(土)～16(日)	18 専門型 公開講座：持続可能な社会と生物時計	●	●	●						
9/18(火)	21 市民セミナー：安心した暮らしと在宅ケアを支える		●	●	●					
9/18(火)	14 国際シンポジウム：アフリカにおけるサステナビリティ学の展開	●		●						
10/6(土)～7(日)	1 24時間 国際サステナ対話		●	●						
10/6(土)～7(日)	2 サステナ・カフェ		●	●	●	●				
10/7(日)～9(火)	15 国際シンポジウム：かわりゆくアジアの山岳環境	●		●						
10/12(金)	22 ESD 国際シンポジウム：共生社会への教育の挑戦	●	●	●						
10/13(土)～14(日)	4 国際シンポジウム 先住民文化遺産とツーリズム～北海道の可能性～	●	●	●						
10/13(土)～21(日)	19 第4回 北海道大学 サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト	●	●	●				10/13		
10/15(月)	29 日中共同シンポジウム：持続可能なサニテーションとリスク管理	●		●						
10/15(月)	23 第3回 国際シンポジウム：東アジアの子どもの健康とサステナビリティ	●	●	●						
10/17(水)	5 産学官セミナー 地理空間情報が拓く未来IV——防災 GISとハザードマップ	●	●	●						
10/17(水)	27 STAND UP TAKE ACTION in Hokudai		●	●	●					
10/18(木)	16 北大×JICA連携企画：持続可能な社会をつくる日本の海外ボランティア ～青年海外協力隊の活動から見る国際協力の世界～		●	●						
10/19(金)	6 環境政策セミナー：持続可能な北海道・日本・世界へ ～再生可能エネルギーとグリーンエコノミー～	●	●	●						
10/20(土)	28 国際シンポジウム：異性装とパロディ	●	●	●						
10/21(日)	7 第3回 サステナブル・キャンパス・コンテスト		●	●	●			10/21 まで		
10/24(水)～28(日)	20 CLARK THEATER 2012		●	●	●	●				10/24
10/25(木)	24 キャリア・セミナー：国際協力プロジェクトをいかに実現するか 開発コンサルタントが語る途上国現場と仕事	●	●	●						
10/26(金)	25 留学希望者向けセミナー：SD on Campus			●						
10/27(土)	8 第9回プレゼン・ディベート大会 原発は是か非か!?——エネルギー政策と北海道経済		●	●	●					
10/27(土)	26 情報科学研究科教員の企画 やさしい情報科学とライフイノベーション公開講座 ——体験しながら学ぶ理科・科学入門教室				●		高専生			10/28 まで
10/29(月)	9 サステナブルキャンパス国際シンポジウム2012	●	●	●						
10/30(火)	30 時計台サロン：農学部に聞いてみよう～自然と食の巡り逢い～		●	●						
11/2(金)～3(土)	31 総合研究企画シンポジウム：「生きづらさ」を超えて	●	●	●						
11/3(土)	32 市民公開講座：ようこそ! ヘルスサイエンスの世界へ		●	●	●					
11/22(木)	12 地域経済経営シンポジウム：地域の多元的な「豊かさ」を目指して	●	●	●						
11/22(木)	13 市民公開シンポジウム：自然エネルギーを1次産業に活用した地域振興	●	●	●	●			11/30 まで		

※行事が変更になる場合があります。最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。 <http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/>

札幌キャンパスマップ



<p>A 学術交流会館</p> <p>18 9/15[土]~16[日] 21 9/18[火] 2 10/6[土]~7[日] 22 10/12[金] 4 10/13[土]~14[日] 19 10/13[土]~21[日] 23 10/15[月] 29 10/15[月] 5 10/17[水]</p> <p>6 10/19[金] 28 10/20[土] 7 10/21[日] 26 10/27[土] 9 10/29[月] 13 11/22[木]</p>	
<p>B 人文・社会科学総合教育研究棟</p> <p>24 10/25[木] 8 10/27[土] 31 11/2[金]~3[土] 12 11/22[木]</p>	
<p>C 国際本部</p> <p>16 10/18[木] 25 10/26[金]</p>	
<p>D クラーク会館</p> <p>20 10/24[水]~28[日]</p>	
<p>E 保健科学研究院</p> <p>32 11/3[土]</p>	
<p>F 歯学部講堂</p> <p>17 9/15[土]</p>	
<p>G 附属図書館本館メディアコート</p> <p>27 10/17[水]</p>	
<p>H 札幌時計台</p> <p>30 10/30[火]</p>	

サステナビリティ・ウィーク
2012 事務局

北海道大学国際本部内
〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目
電話:011-706-8031 FAX:011-706-8036
E-mail: office1@sustain.hokudai.ac.jp

■詳しい情報はウェブサイトで公開しています。
<http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/>



▼ 総括

サステナビリティ・ウィーク 2012 を振り返って

サステナビリティ・ウィーク 2012 実行委員長
国際担当理事・副学長 本堂 武夫



北海道大学サステナビリティ・ウィークは今年、公式にロゴマークを定め、気持ちも新たに6回目を開催しました。テーマとして「安心して暮らせる社会づくり」を掲げ、我々の暮らしを脅かす災害やエネルギー問題等の不安定な世界情勢といった多様な不安要素の回避や解決を目指して議論する機会を提供しました。

第1回ホーム・カミング・デー開催日と同日の10月6日(土)に開幕し、10月21日(日)までの16日間に15企画を開催しました。これに、前後の期間を合わせると、36行事が実施されました。

全体像

あらゆる学問分野から参加がありましたが、これを大きく5つに分類すると次のようなサブ・テーマに集約されます。

(1) 社会のモデルを示す: 9行事

北海道のポテンシャルを活かし、安心して暮らせる社会のモデルを世界に発信する企画

(2) 協力ネットワークを広げる: 5行事

国境を越えた協力をさらに進めるための企画

(3) 健やかに人間らしく生きる: 10行事

ひとり一人が身体的、精神的、社会的に良好な状態 (Well-being) で質の高い生活 (Quality of Life) を送れるコミュニティの実現に向けた企画

(4) 調和を見いだす: 3行事

自然の恩恵を意識しつつ環境を損なわずに暮らす道を模索する企画

(5) 未来への学び: 9行事

叡智や課題を分かち合い共感することを通じて、新たな未来を切り開く心、ちから、仲間を育む企画

サステナビリティ・ウィークの価値

中には、公共政策大学院と環境科学院が共催している「環境政策セミナー」や、工学研究院の「持続可能なサニテーション」、文学研究科の「地理空間が拓く未来」のように、毎年サステナビリティ・ウィークに参加し着実に議論を積み上げている企画がいくつもあります。一方で、附属図書館の「STAND UP TAKE ACTION」のように新たに加わった企画や、数年ぶりに復活参加した企画、隔年で参加するため今年はお休みの企画などがあります。どれもサステナビリティ・ウィークという一つのプラットフォームに集うことが歓迎されます。

なぜならば、行事ひとつひとつがバラバラに開催していたのとは異なる成果を生み出すからです。それは、他の学問分野と共通する課題の発見を促す効果であったり、日本国内さらには国際社会における本学のビジビリティ(視認性)を高める効果であったり、本学が備え持つ人的資源・知的資源を可視化する効果であったりします。その中でも最も注目すべきは、現代社会が抱える課題について本学が果たしている社会的責任の内容、つまり社会貢献のメニューや状況が一覧できる点が、サステナビリティ・ウィークの価値であり、全学で取り組むのに相応しい行事であることの一つの理由です。

将来に向けて

そもそも2005年から本学の国際(展開)戦略テーマとして「持続可能な開発」を掲げることとし、その文脈から2007年にサステナビリティ・ウィークを開始した背景には、世界の要請に応える大学として、国際社会の中でその存在を顕在化していきたいという思いがありました。今、世界のカレンダーを見ますと、2014年は国連「持続可能な発展のための教育の10年」(DESD)キャンペーンの最終年であり、2015年はミレニアム開発目標(MDGs)の達成が問われる年です。より良い世界を築くために国際社会が一体となって取り組むべき事項について、大学もこれまでの働きが検証される時期が近づいています。

そこで世界の動きに先んじて本学は、来年のサステナビリティ・ウィーク2013の中で、これまでの本学の働きを総括し、2015年以降に本学がどのように国際社会に貢献をしていくか方向を定めるための手掛かりを得たいと考えています。

最後に

毎年企画される方々の利便性を考えて、今後サステナビリティ・ウィークは開催時期を固定することにし、10月の最終週から11月の最初の週にかけて開催すること、その直前の土曜日にオープニング行事を行うことを決定しました。したがって、2013年は10月26日(土)から11月3日(日)に開催します。

持続可能な社会の実現の担い手が世界中から集まる機会として、また北海道大学のアクティビティを内外に問う機会として、北海道大学はサステナビリティ・ウィークのいっそうの発展を目指していきます。皆様のご理解とご参加をお願い申し上げます。